

令和3年度 学校図書館評価シート

足立区立鹿浜第一小学校 校長 中郡 英一

1 学校図書館の現状（今年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 12,345 冊 (蔵書基準冊数 10,360 冊) / 蔵書率 119.2% (前年度 123%)									
	② 新規購入図書 768 冊 / 廃棄図書 1,190 冊 / 増減冊数 -422 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	1.4%	1.0%	6.7%	7.0%	11.9%	5.4%	3.1%	6.3%	2.5%	54.5%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	① 開館時間：授業時、月曜日と木曜日（中休、昼休）、雨天時（中休、昼休） （前年度からの変更 あり なし ）									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 29.7 冊（前年度：24.9 冊）									
	③ 1か月に2冊以上読む児童 77.3%（前年度：75%）									

2 学校図書館基本計画「学校図書館の目標・ねらい」の達成状況（今年度総括）

- ① 読書旬間や読み聞かせなどの読書活動の推進によって、児童の読書に対する意欲が高まり、児童一人あたりの年間貸出数が増えた。
- ② 高学年は多くの児童が調べる学習コンクールに参加し、多様な資料から目的に応じた情報を取捨選択して課題解決する能力を伸ばすことができた。
- ③ 様々な取り組みを通して本の楽しさに触れることで、読書習慣が身に付き、読書に親しむ児童が増えた。
- ④ 学校図書館及び校内の図書に関わる環境を整えたことで、読書だけでなく調べ学習に本を活用し、読む本の幅が広がり、昨年度増加していた「1か月に2冊以上の本を読む児童の割合」を維持できた。

3 今年度の重点指導事項・具体的取り組み、及び成果目標の達成状況

第1学年	① 読みやすい読み物に興味をもち、進んで読書しようとする意欲を育てる。	
	② 学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用する態度を育てる。	
今年度の成果目標		達成基準
① 学校図書館を使う授業により、本を手にする機会が増える。		① 各クラス月に1回以上、読書等の授業を学校図書館で行う。
② 学校図書館の本を利用し、読書をする経験を重ねる。		② 読書旬間を利用して、年間一人あたり50冊以上の本を読む。
③ 学校図書館の利用の仕方について知る。		③ 学校図書館オリエンテーションを実施した学級100%
目標達成状況		
① 週1回の図書の時間において、自分の好きな本を読んだり、図書支援員の読み聞かせを聞いたりして、本への興味・関心が高まった。		
② 読書カードを継続して使用し、9割以上の児童が年間50冊以上を読破した。		
③ すべての学級が図書の学習の初回時に、図書支援員より図書室の使い方を教わり、使い方を知ることができた。		

第2学年	① いろいろな読み物に興味をもち、進んで読書しようとする意欲を育てる。 ② 学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用しようとする態度を育てる。
-------------	--

今年度の成果目標	達成基準
① 自分の興味のある本を探して、読書することができる。 ② 図鑑や科学的な読み物について読書し、その内容を友達に伝えることができる。 ③ 学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書することができる。	① 各クラス月に2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 読書旬間を利用して、年間一人あたり50冊以上の本を読む。

目標達成状況
① 週1回の図書の時間において、自分の好きな本を読んだり、図書支援員の読み聞かせを聞いたりして、本への興味・関心が高まった。 ② 年間一人あたり50冊以上の本を読むという目標は、9割以上の児童が達成できた。 ③ 国語の学習と関連させて、図鑑や科学的な読み物を活用することができた。

第3学年	① いろいろな読み物に興味をもち、幅広く読書しようとする意欲を育てる。 ② きまりを守り、学校図書館を進んで利用する態度を養い、資料や情報を集めて活用できる力を育てる。
-------------	---

今年度の成果目標	達成基準
① 自分の興味のある本だけでなく、それに関連する本についても読書しようとする意欲を育てる。 ② 辞典や図鑑等から分かったことをまとめることができる。 ③ 学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書することができる。	① 各クラス月に2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 読書旬間を利用して、年間一人あたり4000ページ以上の本を読む。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が50%以上

目標達成状況
① 週1回の図書の時間において、自分の好きな本を読んだり、図書支援員の読み聞かせを聞いたりして、本への興味・関心が高まった。 ② 年間に4000ページ以上の本を読むことができた児童は70%であった。 ③ 調べる学習コンクールは夏休みの課題として参加を呼び掛ける形で取り組ませ、応募した児童は12%であった。国語の調べ学習を通して学校図書館を活用した探究活動や表現方法を身につけることができた。

第4学年	① いろいろな読み物に興味をもち、幅広く読書しようとする意欲を育てる。 ② きまりを守り、学校図書館を進んで利用する態度を養い、多様な資料や情報を集めて活用することができるようにする。
-------------	---

今年度の成果目標	達成基準
① 自分の興味のある本だけでなく、今まで興味なかった本についても読書することができる。 ② 辞典や図鑑等から分かったことをまとめることができる。 ③ 学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書することができる。	① 各クラス月に2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 読書旬間を利用して、年間一人あたり4500ページ以上の本を読む。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が60%以上

目標達成状況
① 月4回以上、図書の時間において、自分の好きな本を読んだり、調べ学習に図書を活用したりして、本への興味・関心が高まった。 ② 年間に4500ページ以上の本を読むことができた児童は70%であった。 ③ 調べる学習コンクールに参加する児童は75%であった。学校図書館を利用し、調べ方を学んだり、引用の方法を知ったりする等、様々なまとめ方を身につけることができた。

第5学年	① 適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする意欲を育てる。 ② きまりを守り、学校図書館を進んで利用する態度を養い、計画的に資料や情報を収集し、適切に活用することができるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
① 興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ② 複数の本や新聞等から分かったことをまとめることができる。 ③ 学校図書館の利用の仕方について、より利用しやすい方法について考えることができる。	① 各クラス月に1回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 読書旬間を利用して、年間一人あたり5000ページ以上の本を読む。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が70%以上
目標達成状況	
① 月2回程度の図書の時間において、自分の好きな本を読んだり、調べ学習に図書を活用したりして、本への興味・関心が高まった。 ② 年間に5000ページ以上の本を読むことができた児童は80%であった。 ③ 調べる学習コンクールへの参加率は97%であった。児童は学校図書館を活用した探究活動や表現方法を身に付けることができた。	

第6学年	① 適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする意欲を育てる。 ② きまりを守り、学校図書館を進んで利用する態度を養い、計画的に資料や情報を収集し、適切に活用することができるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
① 興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ② 複数の本や新聞等から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③ 学校図書館の利用の仕方について、より利用しやすい方法について考えることができる。	① 各クラス月に1回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ② 読書旬間を利用して、年間一人あたり5000ページ以上の本を読む。 ③ 調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が70%以上
目標達成状況	
① 月2回程度の図書の時間において、自分の好きな本を読んだり、調べ学習に図書を活用したりして、本への興味・関心が高まった。 ② 年間に5000ページ以上の本を読むことができた児童は85%であった。 ③ 調べる学習コンクールへの参加率は70%を超え(87%)、児童は学校図書館を活用した探究活動や表現方法を身に付けることができた。	

4 学校図書館環境整備に関する取り組み成果・効果

【蔵書・配架等に関すること】

- ① 既存の寄贈本や新規購入図書の受け入れ、登録作業を11月末までに完了させた。
- ② 昨年度の廃棄図書から、蔵書構成を念頭においた新規図書購入計画を7月末までに作成した。
- ③ 「教科書に載っている本」のコーナーを新設した。
- ④ 「新聞の記事の紹介、読み方」の掲示を新設した。

【学校図書館支援員との連携・協働】

- ① 1～3年生に学校図書館オリエンテーションを実施し、学校図書館の活用に関するプリント「学校図書館へようこそ」を全学年に配付した。読み語りやブックトーク等、支援員の積極的な連携・協働に取り組むことができた。
- ② 調べ学習をはじめ、授業に必要な教材や資料について積極的に支援員への相談や情報交換を行うことができた。
- ③ 新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティアを募集し連携することができなかったが、学校図書館支援員との連携を深め、明るく楽しい学校図書館づくりに努めた。
- ④ 学校図書館支援員の勤務日には、授業時間の他に中休み・昼休みに学校図書館を開館することができた。

【その他】

- ① 年間を通して各学級に約40冊ずつ学級文庫として本を貸し出し、学級文庫の入れ替えを年に2回行い、児童の読書量の確保を目指した。

5 学校図書館運営に関する全体評価（自己評価）

学校図書館支援員と図書担当教諭が協力しながら読書活動の推進に取り組んだ。その成果として、年間の貸出冊数が増え、読書に親しむ児童の数が昨年度よりも増えた。また、調べる学習コンクールへの参加も呼びかけ、学校図書館を活用して探究活動を進めることで課題解決する能力を育成することに繋がった。

一方で、読書量の少ない児童や読書の幅が広がらない児童、発達年齢に応じた本を読もうとしない児童もいるため、そのような児童に対して、読書の面白さを伝えていく効果的な方法を学校図書館支援員と協力して検討していく必要がある。

6 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（外部評価）

7 今後の展望 —課題や問題点への改善・対応方針を踏まえて—

読書の幅が広がらない児童の興味を引くために、図書委員会などの活動とも絡めながら、学校図書館を活用した授業やイベントを実施し、児童が学校図書館に関わり、読書に親しむ機会を増やしていく。そして、学校図書館支援員と相談や情報交換を引き続き行い、学校図書館資料の整理や更新、及び図書館内の展示や掲示の充実を図り、児童がより利用しやすい学校図書館環境を整備する。

また、教職員の学校図書館活用における意識にばらつきがあるため、学校全体に学校図書館基本計画等の学校の方針を浸透させることで、連携・協働しながら学校図書館運営を進めていく。

これらの取り組みにより、学校図書館の「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての機能向上を実現し、児童が主体的に学校図書館を活用して読書・学習し、創造的な活動を行う環境を目指していきたい。